



アジェンダ

1	ライセンスキーセットアップ手順	・ ・ ・	2
2	ライセンスキー有効化手順	・ ・ ・	11
3	ライセンスキー無効化手順	・ ・ ・	11
4	ライセンスキー（有効期限）更新手順	・ ・ ・	12
5	ライセンスキー Oracle DB 接続ユーザ変更手順	・ ・ ・	13
6	ライセンスキー Oracle DB アップグレード対応手順	・ ・ ・	14
7	ライセンスキー Expdp / Impdp 手順	・ ・ ・	15
8	ライセンスキー状態確認手順	・ ・ ・	16
9	ライセンスキー構成レポート（csv）ファイル作成手順	・ ・ ・	17
10	ライセンスキーアンセットアップ手順	・ ・ ・	19

1 ライセンスキーセットアップ手順

(1) 【 Oracle Database Server 】 Doctor ECHO ユーザの作成 （ 任意 ）

- ① Doctor ECHO ユーザの作成は、オプションです。
Doctor ECHO Server から Oracle Database Server への接続に system ユーザ等の既存ユーザを使用できない場合は、別途、Doctor ECHO 専用のユーザを作成して下さい。
尚、Doctor ECHO ユーザの変更は、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、「Doctor ECHO ユーザの作成」および「ライセンスキー Oracle DB 接続ユーザ変更手順」を実施して頂く事で可能です。
- ※ Doctor ECHO 専用の Doctor ECHO ユーザ（ echo ）を作成して頂く事を推奨します。
 - ※ 作成する場合は、create_user_doctor_echo.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。
 - ※ Doctor ECHO ユーザのデフォルト表領域および一時表領域は、ユーザの定義のみで、実際には使用しません。
 - ※ Doctor ECHO ユーザには、下記システム権限を付与します。
 - ・ システム権限 : create session
 - ※ データベースへの接続権限を付与します。
 - select any dictionary
 - ※ ディクショナリビューの参照権限を付与します。
 - ※ Doctor ECHO ユーザの仕様は、下記の通りです。
 - ・ データベースに接続し、ディクショナリビューのみを参照する事ができます。
 - ・ 表領域にオブジェクトを作成する事はできません。
 - ・ アプリケーションのデータにアクセスする事はできません。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\create_user_doctor_echo
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/create_user_doctor_echo
 - 実行スクリプト
 - ・ create_user_doctor_echo.sql

(2) 【 Oracle Database Server 】リスナーログファイル監視の有効化 （ 任意 ）

- ① リスナーログファイル監視の有効化は、オプションです。
リスナーログファイルの監視を実施したい場合は、リスナーログファイルの監視を有効にしてください。
尚、リスナーログファイル監視の有効 / 無効の切り替えは、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、リスナーログファイル監視の有効化 / 無効化を実施して頂く事で可能です。
- ※ リスナーログファイルの監視を有効にして頂く事を推奨します。
- ※ 有効にする場合は、enable_doctor_echo_listener_log_check.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。
- ※ リスナーログファイル監視の有効化を実施すると、リスナーログファイルを参照するためのオブジェクトを作成し、Doctor ECHO ユーザが参照するためのオブジェクト権限を付与します。
- ・ ディレクトリ : echo_<INSTANCE_NAME>_listener_dir
※ リスナーログファイル参照用のディレクトリを作成します。
※ ディレクトリのオーナーは、SYS ユーザとなります。
 - ・ 外部表 : echo_<INSTANCE_NAME>_listener_log
※ リスナーログファイル参照用の外部表を作成します。
※ 外部表のオーナーは、Doctor ECHO ユーザとなります。
※ 外部表は、表領域にセグメントを作成しません。
※ 外部表のアクセスは、バッファキャッシュを経由しません。
 - ・ オブジェクト権限 : read on directory echo_<INSTANCE_NAME>_listener_dir
※ リスナーログファイル参照権限を Doctor ECHO ユーザに付与します。
※ 参照権限のみのため、書き込む事はできません。
- ※ リスナーログファイルの監視を有効にしても、表領域を消費したり、バッファキャッシュを消費する等、システムに影響を与える事はありません。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\check_doctor_echo_listener_log
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/check_doctor_echo_listener_log
 - 実行スクリプト
 - ・ enable_doctor_echo_listener_log_check.sql

(3) 【 Oracle Database Server 】アラートログファイル監視の有効化 （ 任意 ）

- ① アラートログファイル監視の有効化は、オプションです。
アラートログファイルの監視を実施したい場合は、アラートログファイルの監視を有効にしてください。
尚、アラートログファイル監視の有効 / 無効の切り替えは、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、アラートログファイル監視の有効化 / 無効化を実施して頂く事で可能です。
- ※ アラートログファイルの監視を有効にして頂く事を推奨します。
- ※ 有効にする場合は、enable_doctor_echo_alert_log_check.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。
- ※ アラートログファイル監視の有効化を実施すると、アラートログファイルを参照するためのオブジェクトを作成し、Doctor ECHO ユーザが参照するためのオブジェクト権限を付与します。
- ・ ディレクトリ : echo_<INSTANCE_NAME>_alert_dir
 - ※ アラートログファイル参照用のディレクトリを作成します。
 - ※ ディレクトリのオーナーは、SYS ユーザとなります。
 - ・ 外部表 : echo_<INSTANCE_NAME>_alert_file
 - ※ アラートログファイル参照用の外部表を作成します。
 - ※ 外部表のオーナーは、Doctor ECHO ユーザとなります。
 - ※ 外部表は、表領域にセグメントを作成しません。
 - ※ 外部表のアクセスは、バッファキャッシュを経由しません。
 - ・ オブジェクト権限 : read on directory echo_<INSTANCE_NAME>_alert_dir
 - ※ アラートログファイル参照権限を Doctor ECHO ユーザに付与します。
 - ※ 参照権限のみのため、書き込む事はできません。
- ※ アラートログファイルの監視を有効にしても、表領域を消費したり、バッファキャッシュを消費する等、システムに影響を与える事はありません。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\check_doctor_echo_alert_log
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/check_doctor_echo_alert_log
 - 実行スクリプト
 - ・ enable_doctor_echo_alert_log_check.sql

(4) 【 Oracle Database Server 】 ASM アラートログファイル監視の有効化 （ 任意 ）

- ① ASM アラートログファイル監視の有効化は、オプションです。
ASM アラートログファイルの監視を実施したい場合は、ASM アラートログファイルの監視を有効にしてください。
尚、ASM アラートログファイル監視の有効 / 無効の切り替えは、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、ASM アラートログファイル監視の有効化 / 無効化を実施して頂く事で可能です。
- ※ ASM アラートログファイルの監視を有効にして頂く事を推奨します。
- ※ 有効にする場合は、enable_doctor_echo_asm_alert_log_check.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。
- ※ ASM アラートログファイル監視の有効化を実施すると、ASM アラートログファイルを参照するためのオブジェクトを作成し、Doctor ECHO ユーザが参照するためのオブジェクト権限を付与します。
- ・ ディレクトリ : echo_<INSTANCE_NAME>_asm_alert_dir
※ ASM アラートログファイル参照用のディレクトリを作成します。
※ ディレクトリのオーナーは、SYS ユーザとなります。
 - ・ 外部表 : echo_<INSTANCE_NAME>_asm_alert_log
※ ASM アラートログファイル参照用の外部表を作成します。
※ 外部表のオーナーは、Doctor ECHO ユーザとなります。
※ 外部表は、表領域にセグメントを作成しません。
※ 外部表のアクセスは、バッファキャッシュを経由しません。
 - ・ オブジェクト権限 : read on directory echo_<INSTANCE_NAME>_asm_alert_dir
※ ASM アラートログファイル参照権限を Doctor ECHO ユーザに付与します。
※ 参照権限のみのため、書き込む事はできません。
- ※ ASM アラートログファイルの監視を有効にしても、表領域を消費したり、バッファキャッシュを消費する等、システムに影響を与える事はありません。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\check_doctor_echo_asm_alert_log
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/check_doctor_echo_asm_alert_log
 - 実行スクリプト
 - ・ enable_doctor_echo_asm_alert_log_check.sql

【 ASM 未使用時に警告されるメッセージの抑止 】（ 任意 ）

ASM をご使用されていなければ、当オプション機能は対象外となりますが、基本的にデフォルト値を『 無効 』と捉えておりますので、下記の箇所で警告メッセージが表示されます。

【 警告メッセージ 】

- Doctor ECHO Management 通知メール
 - Check Doctor ECHO License Key Option Status Report
- Doctor ECHO Management 稼動レポート
 - Check Doctor ECHO License Key Option Status Report

※ 詳細は、『Ⅳ 通知メール 編』の「 Doctor ECHO Management 通知メール 」を参照して下さい。

※ 詳細は、『Ⅴ 稼動レポート 編』の「 Doctor ECHO Management 稼動レポート 」を参照して下さい。

監視対象外の不要な警告メッセージにより、本来監視すべき警告メッセージに気づかない事が懸念されるため、当警告メッセージを抑止して頂く事を推奨します。
当警告メッセージを抑止する場合は、下記スクリプトを実行して下さい。

● 実行スクリプト

- unused_doctor_echo_asm_alert_log_check.sql

※ ASM アラートログファイル監視の抑止を実施すると、ダミー表（ dual 表 ）を参照するためのオブジェクトを作成します。

- ビュー : echo_<INSTANCE_NAME>_asm_alert_log
 - ※ ダミー表（ dual 表 ）参照用のビューを作成します。
 - ※ ビューのオーナーは、Doctor ECHO ユーザとなります。
 - ※ ビューは、表領域にセグメントを作成しません。
 - ※ ビューへのアクセスは、参照のみです。

(5) 【 Oracle Database Server 】 CRS アラートログファイル監視の有効化 （ 任意 ）

- ① CRS アラートログファイル監視の有効化は、オプションです。
 CRS アラートログファイルの監視を実施したい場合は、CRS アラートログファイルの監視を有効にしてください。
 尚、CRS アラートログファイル監視の有効 / 無効の切り替えは、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、CRS アラートログファイル監視の有効化 / 無効化を実施して頂く事で可能です。
- ※ CRS アラートログファイルの監視を有効にして頂く事を推奨します。
- ※ 有効にする場合は、enable_doctor_echo_crs_alert_log_check.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。
- ※ CRS アラートログファイル監視の有効化を実施すると、CRS アラートログファイルを参照するためのオブジェクトを作成し、Doctor ECHO ユーザが参照するためのオブジェクト権限を付与します。
- ・ ディレクトリ : echo_<INSTANCE_NAME>_crs_alert_dir
 ※ CRS アラートログファイル参照用のディレクトリを作成します。
 ※ ディレクトリのオーナーは、SYS ユーザとなります。
 - ・ 外部表 : echo_<INSTANCE_NAME>_crs_alert_log
 ※ CRS アラートログファイル参照用の外部表を作成します。
 ※ 外部表のオーナーは、Doctor ECHO ユーザとなります。
 ※ 外部表は、表領域にセグメントを作成しません。
 ※ 外部表のアクセスは、バッファキャッシュを経由しません。
 - ・ オブジェクト権限 : read on directory echo_<INSTANCE_NAME>_crs_alert_dir
 ※ CRS アラートログファイル参照権限を Doctor ECHO ユーザに付与します。
 ※ 参照権限のみのため、書き込む事はできません。
- ※ CRS アラートログファイルの監視を有効にしても、表領域を消費したり、バッファキャッシュを消費する等、システムに影響を与える事はありません。
- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\check_doctor_echo_crs_alert_log
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/check_doctor_echo_crs_alert_log
 - 実行スクリプト
 - ・ enable_doctor_echo_crs_alert_log_check.sql

【 CRS 未使用時に警告されるメッセージの抑止 】（ 任意 ）

CRS をご使用されていない場合は、当オプション機能は対象外となりますが、基本的にデフォルト値を『 無効 』と捉えておりますので、下記の箇所で警告メッセージが表示されます。

【 警告メッセージ 】

- Doctor ECHO Management 通知メール
 - Check Doctor ECHO License Key Option Status Report
- Doctor ECHO Management 稼動レポート
 - Check Doctor ECHO License Key Option Status Report

※ 詳細は、『 IV 通知メール 編 』の「 Doctor ECHO Management 通知メール 」を参照して下さい。

※ 詳細は、『 V 稼動レポート 編 』の「 Doctor ECHO Management 稼動レポート 」を参照して下さい。

監視対象外の不要な警告メッセージにより、本来監視すべき警告メッセージに気づかない事が懸念されるため、当警告メッセージを抑止して頂く事を推奨します。
当警告メッセージを抑止する場合は、下記スクリプトを実行して下さい。

● 実行スクリプト

- unused_doctor_echo_crs_alert_log_check.sql

※ CRS アラートログファイル監視の抑止を実施すると、ダミー表（ dual 表 ）を参照するためのオブジェクトを作成します。

- ビュー : echo_<INSTANCE_NAME>_crs_alert_log
 - ※ ダミー表（ dual 表 ）参照用のビューを作成します。
 - ※ ビューのオーナーは、Doctor ECHO ユーザとなります。
 - ※ ビューは、表領域にセグメントを作成しません。
 - ※ ビューへのアクセスは、参照のみです。

(6) tnsnames.ora ファイルの編集

- ① Oracle Database Server に接続するための接続情報を、tnsnames.ora ファイルに追記して下さい。

※ 記述方法については、サンプルの doctor_echo_tnsnames.ora ファイルを参照して下さい。

● for Oracle XE 11gR2 Windows の場合

- %ECHO_HOME%\sample\doctor_echo_server\doctor_echo_tnsnames.ora

● for Oracle XE 11gR2 Linux の場合

- \$ECHO_HOME/sample/doctor_echo_server/doctor_echo_tnsnames.ora

● 参照ファイル

- doctor_echo_tnsnames.ora

● 接続文字列 (サンプル)

- S - Single : orcl_orclsrv 、 orcl#orclsrv
- H - High Availability : orcl_orclsrv 、
orcl_orclsrv1 、 orcl#orclsrv1 、
orcl_orclsrv2 、 orcl#orclsrv2
- R - Real Application Clusters : orcl_orclsrv1 、
orcl1_orclsrv1 、 orcl1#orclsrv1 、
orcl2_orclsrv2 、 orcl2#orclsrv2

※ お客様の環境に合わせて変更して下さい。

(7) ライセンスキーのセットアップ

① ライセンスキーをセットアップします。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥setup_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/setup_echo_license_key

※ セットアップ時に入力が必要な項目は、下記の通りです。

※ 大文字と小文字を区別しますので、実機にて確認して頂き、正確に入力して下さい。

- | | | |
|-------------------------|---|--|
| ・ ORACLE_HOME | : | Doctor ECHO Server の ORACLE_HOME |
| ・ ECHO_USER_PASSWORD | : | Doctor ECHO ユーザのパスワード |
| ・ SERVER_CONSTRUCTION | : | Oracle Database Server の構成 |
| | | ・ Single の場合は、[S] |
| | | ・ High Availability の場合は、[H] |
| | | ・ Real Application Clusters の場合は、[R] |
| ・ HOST_NAME | : | ホスト名 (ドメイン名は不要) |
| ・ DB_UNIQUE_NAME | : | DB ユニーク名 |
| ・ INSTANCE_NAME | : | インスタンス名 |
| ・ MASTER_NODE | : | マスタノード名 |
| | | ・ [S] の場合は、HOST_NAME |
| | | ・ [H] の場合は、仮想ホスト名 |
| | | ・ [R] の場合は、マスタノード名 |
| ・ LICENSE_NO | : | ライセンス No |
| ・ GLOBAL_NAME | : | グローバル名 |
| ・ CONNECT_USER_NAME | : | Oracle Database に接続するユーザ名 |
| ・ CONNECT_USER_PASSWORD | : | 接続ユーザのパスワード |

★『トライアル使用』★

『トライアル使用』の場合は、入力項目の LICENSE_NO に [0 (ゼロ)] を入力して下さい。
LICENSE_NO に [0 (ゼロ)] と入力する事で、全ての機能を 1週間使用する事ができます。

(8) ライセンスキーのセットアップ完了確認

① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインし、ライセンスキーを確認して下さい。

※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。

- <http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1>
(例) <http://echo:8080/apex/f?p=1:1>
- Doctor ECHO ユーザ名 : echo

※ ライセンスキーセットアップ完了時は、ライセンスキーを無効にしています。
Oracle 定期健診 (Oracle Database Server の監視) を開始するには、
ライセンスキーの有効化を実施して下さい。

2 ライセンスキー有効化手順

(1) ライセンスキーの有効化

- ① ライセンスキーを有効にし、Oracle 定期健診を開始します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥enable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

3 ライセンスキー無効化手順

(1) ライセンスキーの無効化

- ① ライセンスキーを無効にし、Oracle 定期健診を停止します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥disable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

4 ライセンスキー（有効期限）更新手順

(1) ライセンスキーの無効化

- ① ライセンスキーを無効にし、Oracle 定期健診を停止します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) ライセンスキー（有効期限）の更新

- ① ライセンスキー（有効期限）を更新にします。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\update_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/update_echo_license_key

(3) ライセンスキーの有効化

- ① ライセンスキーを有効にし、Oracle 定期健診を開始します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\enable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

(4) ライセンスキー（有効期限）の更新完了確認

- ① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインし、ライセンスキーを確認して下さい。

※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。

- <http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1>
（例）<http://echo:8080/apex/f?p=1:1>
- Doctor ECHO ユーザ名 : echo

5 ライセンスキー Oracle DB 接続ユーザ変更手順

(1) ライセンスキーの無効化

- ① ライセンスキーを無効にし、Oracle 定期健診を停止します。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) ライセンスキー Oracle DB 接続ユーザの変更

- ① ライセンスキー Oracle DB 接続ユーザを変更します。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\change_echo_oracle_connect_user.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/change_echo_oracle_connect_user

(3) ライセンスキーの有効化

- ① ライセンスキーを有効にし、Oracle 定期健診を開始します。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\enable_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

(4) ライセンスキー Oracle DB 接続ユーザの変更完了確認

- ① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインし、ライセンスキーを確認して下さい。

※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。

- <http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1>
(例) <http://echo:8080/apex/f?p=1:1>
- Doctor ECHO ユーザ名 : echo

6 Oracle Database アップグレード対応手順

(1) ライセンスキーの無効化

- ① ライセンスキーを無効にし、Oracle 定期健診を停止します。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) Oracle Database 管理情報のアップグレード

- ① Oracle Database の管理情報をアップグレードします。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\upgrade_echo_oracle_release_version.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/upgrade_echo_oracle_release_version

(3) ライセンスキーの有効化

- ① ライセンスキーを有効にし、Oracle 定期健診を開始します。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\enable_echo_license_key.bat
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

(4) Oracle Database 管理情報のアップグレード完了確認

- ① クライントPCのブラウザから Doctor ECHO にログインし、ライセンスキーを確認して下さい。

※ Doctor ECHO ログイン URL は、下記の通りです。

- <http://<Doctor ECHO Server>:<Port>/apex/f?p=1:1>
(例) <http://echo:8080/apex/f?p=1:1>
- Doctor ECHO ユーザ名 : echo

7 ライセンスキー Expdp / Impdp 手順

【ライセンスキー Expdp 手順】

(1) ライセンスキースキーマの Expdp

- ① ライセンスキースキーマの全データを Expdp します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥expdp_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/expdp_echo_license_key

【ライセンスキー Impdp 手順】

(1) ライセンスキーの無効化

- ① ライセンスキーを無効にし、Oracle 定期健診を停止します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥disable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key

(2) ライセンスキースキーマの Impdp

- ① ライセンスキースキーマの全データを Impdp します。

※ 既存データは、全て削除（ TRUNCATE ）され、Impdp されます。

 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥impdp_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/impdp_echo_license_key

(3) ライセンスキーの有効化

- ① ライセンスキーを有効にし、Oracle 定期健診を開始します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥enable_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/enable_echo_license_key

8 ライセンスキー状態確認手順

(1) ライセンスキー状態の確認

- ① ライセンスキーの状態を確認にします。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat\check_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/check_echo_license_key

9 ライセンスキー構成レポート (csv) ファイル作成手順

(1) ライセンスキー構成レポート (csv) ファイル作成

- ① ライセンスキーの構成レポート (csv) ファイルを作成します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\bat¥report_echo_license_key.bat
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/bin/report_echo_license_key

【 Oracle Database Configuration 】

下記 Oracle Database の構成レポート (csv) ファイルを作成します。

- ① Oracle Database Release Version Report
- ② Oracle Database Options Report
- ③ Oracle Database Report
- ④ Oracle Database Components Report
- ⑤ Oracle Database NLS Database Parameters Report
- ⑥ Oracle Database Controlfile Record Section Report
- ⑦ Oracle Database Control Files Report
- ⑧ Oracle Database Log Files Report
- ⑨ Oracle Database Data Files Report
- ⑩ Oracle Database Tablespaces Report
- ⑪ Oracle Database Tablespaces Capacity Report
- ⑫ Oracle Database Rollback Segments Report

【 Oracle Database Objects Configuration 】

下記 Oracle Database Objects の構成レポート (csv) ファイルを作成します。

- ① Oracle Database Profiles Report
- ② Oracle Database Roles Report
- ③ Oracle Database Users Report
- ④ Oracle Database Tablespace Quotas Report
- ⑤ Oracle Database System Privileges Report
- ⑥ Oracle Database Object Privileges Report
- ⑦ Oracle Database Role Privileges Report
- ⑧ Oracle Database Objects Report
- ⑨ Oracle Database Segments Report
- ⑩ Oracle Database Tables Report
- ⑪ Oracle Database Table Partitions Report
- ⑫ Oracle Database Indexs Report
- ⑬ Oracle Database Index Partitions Report

【 Oracle Instance Configuration 】

下記 Oracle Instance の構成レポート (csv) ファイルを作成します。

- ① Oracle Instance Report
- ② Oracle Instance NLS Instance Parameters Report
- ③ Oracle Instance System Parameters Report

10 ライセンスキーアンセットアップ手順

(1) ライセンスキーの無効化

- ① ライセンスキーを無効にし、Oracle 定期健診を停止します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ `%ECHO_HOME%\bat\disable_echo_license_key.bat`
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ `$ECHO_HOME/bin/disable_echo_license_key`

(2) ライセンスキーのアンセットアップ

- ① ライセンスキーのアンセットアップを実施し、ライセンスキーを削除します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ `%ECHO_HOME%\bat\unsetup_echo_license_key.bat`
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ `$ECHO_HOME/bin/unsetup_echo_license_key`

(3) ライセンスキー情報（環境変数）の削除

- ① ライセンスキー情報（環境変数）を削除します。
 - for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ `del %ECHO_HOME%\bat\setenv_*.bat`
 - for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ `rm -f $ECHO_HOME/bin/setenv_*`

(4) tnsnames.ora ファイルの編集

- ① Oracle Database Server に接続するための接続情報を、tnsnames.ora ファイルから削除して下さい。

(5) 【Oracle Database Server】Doctor ECHO ユーザの削除（任意）

- ① Doctor ECHO Server から Oracle Database Server への接続に、別途、Doctor ECHO ユーザを作成した場合は、該当の Doctor ECHO ユーザを削除して下さい。

※ 削除する場合は、drop_user_doctor_echo.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ `%ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\create_user_doctor_echo`
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ `$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/create_user_doctor_echo`
- 実行スクリプト
 - ・ `drop_user_doctor_echo.sql`

(6) 【 Oracle Database Server 】リスナーログファイル監視の無効化 （ 任意 ）

- ① リスナーログファイルの監視を有効にした場合は、リスナーログファイルの監視を無効にしてください。
尚、リスナーログファイル監視の有効 / 無効の切り替えは、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、リスナーログファイル監視の有効化 / 無効化を実施して頂く事で可能です。

※ 無効にする場合は、disable_doctor_echo_listener_log_check.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\check_doctor_echo_listener_log
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/check_doctor_echo_listener_log
- 実行スクリプト
 - ・ disable_doctor_echo_listener_log_check.sql

(7) 【 Oracle Database Server 】アラートログファイル監視の無効化 （ 任意 ）

- ① アラートログファイルの監視を有効にした場合は、アラートログファイルの監視を無効にしてください。
尚、アラートログファイル監視の有効 / 無効の切り替えは、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、アラートログファイル監視の有効化 / 無効化を実施して頂く事で可能です。

※ 無効にする場合は、disable_doctor_echo_alert_log_check.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - ・ %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\check_doctor_echo_alert_log
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - ・ \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/check_doctor_echo_alert_log
- 実行スクリプト
 - ・ disable_doctor_echo_alert_log_check.sql

(8) 【 Oracle Database Server 】 ASM アラートログファイル監視の無効化 （ 任意 ）

- ① ASM アラートログファイルの監視を有効にした場合は、ASM アラートログファイルの監視を無効にしてください。
尚、ASM アラートログファイル監視の有効 / 無効の切り替えは、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、ASM アラートログファイル監視の有効化 / 無効化を実施して頂く事で可能です。

※ 無効にする場合は、disable_doctor_echo_asm_alert_log_check.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\check_doctor_echo_asm_alert_log
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/check_doctor_echo_asm_alert_log
- 実行スクリプト
 - disable_doctor_echo_asm_alert_log_check.sql

【 ASM 未使用時に警告されるメッセージ抑止の解除 】（ 任意 ）

ASM 未使用時に警告されるメッセージを抑止した場合は、抑止を解除して下さい。
抑止を解除する場合は、下記スクリプトを実行して下さい。

- 実行スクリプト
 - reset_doctor_echo_asm_alert_log_check.sql

(9) 【 Oracle Database Server 】 CRS アラートログファイル監視の無効化 （ 任意 ）

- ① CRS アラートログファイルの監視を有効にした場合は、CRS アラートログファイルの監視を無効にしてください。
尚、CRS アラートログファイル監視の有効 / 無効の切り替えは、ライセンスキーセットアップ後（運用中）でも、CRS アラートログファイル監視の有効化 / 無効化を実施して頂く事で可能です。

※ 無効にする場合は、disable_doctor_echo_crs_alert_log_check.sql スクリプトを、Oracle Database Server 側で sqlplus を起動して実行して下さい。

- for Oracle XE 11gR2 Windows の場合
 - %ECHO_HOME%\option\oracle_database_server\check_doctor_echo_crs_alert_log
- for Oracle XE 11gR2 Linux の場合
 - \$ECHO_HOME/option/oracle_database_server/check_doctor_echo_crs_alert_log
- 実行スクリプト
 - disable_doctor_echo_crs_alert_log_check.sql

【 CRS 未使用時に警告されるメッセージ抑止の解除 】（ 任意 ）

CRS 未使用時に警告されるメッセージを抑止した場合は、抑止を解除して下さい。
抑止を解除する場合は、下記スクリプトを実行して下さい。

- 実行スクリプト
 - reset_doctor_echo_crs_alert_log_check.sql